

言いかえてみよう！慣用句プリント①

手・口・目・耳の ことば ふつうの 言い方 ↔ 慣用句

なまえ _____

ひづけ _____

上の れい 道で 友だちと 油を売った。 → 道で 友だちと おだ話を して すごした。（かならず入れる言葉：おだ話）

下の れい きのうの けんかは、もう なかった ことに しよう。 → きのうの けんかは、水に流そう。

1 ふつうの 言い方に 書きかえよう

右の「かならず入れる言葉」を 使って 書きます

- (1) 弟の いたずらに、母は 手を焼いて いる。

かならず入れる言葉：こまっ

- (2) あの 人は 口が軽い ので、ひみつの 話は できない。

かならず入れる言葉：しゃべって

- (3) いつも ちらかして いると 言われて、耳が痛い。

かならず入れる言葉：つらい

- (4) 兄は マンガに 目がない。

かならず入れる言葉：大すき

- (5) 引っこしの とき、近所の 人が 手を貸して くれた。

かならず入れる言葉：手つだって

2 慣用句を 使って 書きかえよう

下の 箱から えらびます。使わない 言葉も あります

- (6) クラスの みんなが、同じ ことを いっせいに 言った。

- (7) ぼくが 作った 大きな 雪だるまを 見て、弟は とても おどろいた。

- (8) 先生の 話を、みんなは しんけんに 聞いた。

- (9) なくした 消しゴムを、見のがさない ように 一生けんめい さがした。

- (10) そうじの 時間に、ぼくは めんどくで いいかげんに やって しまった。

ことばの 箱

目が高い

口をそろえる

手を抜く

耳にタコができる

目を皿にする

口が堅い

耳を傾ける

目を丸くする



言いかえてみよう！慣用句プリント②

むね はら かんようく
胸・腹・気のことは 慣用句 ↔ ふつうの 言い方

なまえ _____

ひづけ _____

1 慣用句の意味を、ふつうの言い方で書こう

字をそのまま読んだ意味ではありません

(1) テストで 百点を とった 兄は、胸を張って 家に 帰って きた。

(2) 弟が おもちゃを こわしたので、姉は 腹を立てた。

(3) あしたの 歯医者 の ことを 考えると、気が重い。

(4) ゴールを 決めた 仲間を 見て、胸が熱くなった。

(5) 祖父は 気が短くて、待つのが きらいだ。

2 下の箱の慣用句で書きかえよう

使わない言葉もあります

(6) あしたの 運動会が 楽しみで、わくわくして ねむれない。

(7) しっぱいしても いいから、さいごまで やりぬこうと 決心した。

(8) あの 子とは 考え方や 好み が 同じで、すぐに なかよくなった。

(9) 友だちと、かくしごとを せずに 思っている ことを ありのまま 話した。

(10) つりが 好きな 父は、魚が かかるまで 何時間も じっと 待てる。

ことばの箱

ゆる
気を許す

むね
胸を借りる

はら
腹を決める

はら わ
腹を割って話す

むね
胸がはずむ

はら
腹黒い

気が合う

気が長い



言いかえてみよう！慣用句プリント③

足・首・^{かた}肩・^{こし}腰の ことば ふつうの 言い方 ↔ ^{かんようく}慣用句

なまえ _____

ひづけ _____

上の れい この くらいの そうじは 朝飯前だ。 → この くらいの そうじは とても かんたんだ。

下の れい 弟は サッカーが 上手に なる ために、毎日 がんばって いる。 → 弟は サッカーの ^{うで}腕を ^{みが}磨いて いる。

1 ^{かん}慣用句を、ふつうの ^く言い方に 書きかえよう

れいの ように 書きかえます

(1) ぼくの ミスで、チームの 足を引っ張って しまった。

(2) けんかを した とき、先生は 妹の 肩を持った。

(3) なぞなぞの 答えを 聞いて、みんな 首をかしげた。

(4) あの お店の 人は 腰が低くて、感じが いい。

(5) 山道を 歩いて、足が棒になった。

2 足・首・^{かた}肩・^{こし}腰の どれかが 入る ^{かん}慣用句を 思い出して 書こう

箱は ありません

(6) ひさしぶりの 友だちからの 手紙を、今か今かと 待っ ている。

(7) 大きな ヘビが 出 きて、わたしは びっくりして すわりこんで しまった。

(8) さいごの 試合に まけて、チームの みんなは がっかりして 元気を なくした。

(9) 自由研究を 出し終えて、やる ことが なくなり、ほっと した。

(10) お花を 買う ために、わざわざ 遠くの 店まで 出かけた。



言いかえてみよう！慣用句プリント④

ものがたりの 中の 慣用句を見つけよう

なまえ _____

ひづけ _____

1 ものがたりの 慣用句を見つけて、ふつうの 言い方に 書こう

慣用句は 1つの 文に 1つずつ あります

れい みんなが 楽しく あそんで いる のに、兄が 水を差した。

→ 慣用句：水を差した ふつうの 言い方：じゃまを した

- (1) 文化祭の 前の 日、ぼくたちの クラスは いそがしくて、猫の手も借りたい ほどだった。
- (2) ポスターがかりの 田中さんは、夜おそくまで 骨を折って、大きな 絵を かきあげた。
- (3) できあがった 絵を 見て、みんなは 舌を巻いた。
- (4) 先生も、田中さんの がんばりには 頭が下がる と 言った。
- (5) 同じ 組の ぼくは、クラスの 作品が ほめられて 鼻が高かった。

- | | | |
|-----|----------------|------------------|
| (1) | 見つけた 慣用句 _____ | → ふつうの 言い方 _____ |
| (2) | 見つけた 慣用句 _____ | → ふつうの 言い方 _____ |
| (3) | 見つけた 慣用句 _____ | → ふつうの 言い方 _____ |
| (4) | 見つけた 慣用句 _____ | → ふつうの 言い方 _____ |
| (5) | 見つけた 慣用句 _____ | → ふつうの 言い方 _____ |

2 下線の 言い方を、下の 箱の 慣用句で 書きかえよう

使わない 言葉も あります

- (6) 出発の 前の 日、母は わすれものを しないよう、何度も 同じ ことを 注意して くれた。
- (7) 当日の 朝、ぼくは 雨が ふらないか しんぱいして おちつかなかった。
- (8) バス の 中で、先生は 迷子が 出ないよう よく 見はって いた。
- (9) 山道で ころびそうに なり、ぼくは ひやっと した。
- (10) 帰りの バスで ふざけて いた 兄は、先生に 言われて 気持ちを しずめた。

- | | |
|------|-----------|
| (6) | 慣用句 _____ |
| (7) | 慣用句 _____ |
| (8) | 慣用句 _____ |
| (9) | 慣用句 _____ |
| (10) | 慣用句 _____ |

ことばの 箱

肝を冷やす

気を抜く

目を光らせる

頭を冷やす

口を酸っぱくする

顔を出す

気をもむ



言いかえてみよう！慣用句プリント⑤

自分で書いた文を慣用句で書きなおそう

なまえ _____

ひづけ _____

1 慣用句を、ふつうの言い方に書きかえよう

ヒントの言葉は ありません

(1) ぼくの父は 顔が広い。

(2) 弟は兄の注意に 耳を貸さない。

(3) 生まれたばかりの妹は 手がかかる。

(4) 先生は 新入生に 目をかけて いる。

(5) かぜを ひいた 母に、父は 気を配って いる。

2 自分の文を、慣用句で書きなおそう

① あ・い・う の おだいで、箱の ことばの 意味に 合う ことを、慣用句を 使わないで ①に 書く（短い 文で よい）

② ①と 同じ 意味に なる ように、箱の 慣用句を 使って ②に 書きなおす

③ ②が できたら、見なおして □に 印を つける

れい ① お客様の 前で、おとなしい ふりを した。 → ② お客様の 前で、猫をかぶった。

あ 学校で あった ことを 書こう

① _____

② _____

見なおし □ ①と 同じ 意味 □ 箱の 慣用句を 使った □ 字の とおりの 意味じゃない

い 友だちと あそんだ ことを 書こう

① _____

② _____

見なおし □ ①と 同じ 意味 □ 箱の 慣用句を 使った □ 字の とおりの 意味じゃない

う 家の 手つだいを した ことを 書こう

① _____

② _____

見なおし □ ①と 同じ 意味 □ 箱の 慣用句を 使った □ 字の とおりの 意味じゃない

ことばの 箱（意味つき）

骨が折れる＝たいへんで 苦労する

頭を抱える＝どう すれば よいか わからず こまる

鳥肌が立つ＝感動して ぞくっと する

手を尽くす＝できる かぎりの ことを する

顔から火が出る＝はずかしくて 顔が まっかになる

腕が鳴る＝自分の 力を 見せたくて うずうずする

心を打つ＝感動させて 心に のこる

気が引ける＝もうしわけなくて 気おくれする

